

7 北杜市次世代エネルギーパークの運用と今後の課題

7.1 運用の考え方

北杜市次世代エネルギーパークは、北杜市の「豊かな自然」「新エネルギー設備」「人」などの地域特性を活かした環境活動の場・機会を市民、団体、事業者、観光客等に広く提供し、エネルギー環境教育、大学・企業等による研究、エネルギー関連施設への視察・見学、社員教育などのアクションエリア（行動域）として活用します。それらの体験・活動を通じて学びあう関係を築き、生命や自然の大切さを感じ取り、地球温暖化問題への理解促進を図り、環境へ配慮した自主的な行動・活動を促すことを目指します。

北杜市次世代エネルギーパーク構想の実現に向けた運用の考え方として、以下の3点が重要です。

(1) 新エネルギー施設の充実と観光資源等との連携

中核施設やサテライト施設に位置付けられる拠点施設は、各々の施設では新エネルギー設備の導入を促進し、その特徴を活かした展示、体験プログラム等の充実を図ります。特に中核施設は、北杜市次世代エネルギーパークの窓口として、全体概要の説明、案内が可能な運用体制、市民や観光客などが利用しやすい運用形態を検討します。

また、関連機関と連携し、相乗効果による地域の活性化を図ります。

(2) 北杜市版インタープリターによるエネルギー環境教育等の推進

エネルギー環境教育を推進するため、市民と市外から訪れる観光客等に対する意識啓発が必要です。市民に対しては小中学校等の教育施設におけるエネルギー環境教育プログラムや市民向けのイベント・講座などの充実が求められます。

観光客に対しては、一方的な広報や展示だけではなく、観光客等が「参加しやすい」「参加したくなる」北杜市の新エネルギー施設や観光資源などを活用した、見て、触れて、体感できるような体験プログラムや交流プログラムの充実が必要です。

そのために、北杜市次世代エネルギーパークを理解し、説明ができる説明員や指導者となる北杜市版インタープリターを養成し、エネルギー環境教育等の推進を図ります。

(3) 情報発信機能の充実

北杜市次世代エネルギーパークの構成施設は、地域、公共施設、民間施設など特性が異なります。また、本パークを活用する人は、市民や観光客、企業など多様であり、学習・研修、観光、ビジネスなど目的も異なります。

インターネットをうまく活用することは、これから本パーク事業を展開していく上で必要であり、本パークのホームページを作成し、活動者・消費者ニーズの多様化・高度化に対応できる情報を広く発信します。内容については、北杜市域に広がる構成施設の利点を活かしたエネルギー環境教育プログラム、エコツアーのモデルルート案内など、活用される人に対して選択可能な情報、新エネルギー・省エネルギーに関する情報などが考えられ、普及促進ツールのひとつとしても活用することが可能です。

7.2 運用の体制

北杜市次世代エネルギーパーク構想を実現していくために、本構想策定後に中心的な役割を果たす運営組織を構築し、同組織により継続的な管理・運営がされる必要があります。

具体的には、市民、市民グループ、企業、大学等教育機関、北杜市等が構成メンバーとなり、「北杜市次世代エネルギーパーク推進協議会（仮称）」を立ち上げることが考えられます。運営組織の設立にあたっては、運用に向けた円滑な推進を図る必要があるため、市内で活動している複数の主体で構成されている本事業の趣旨に沿った適切な既存団体等を母体として充てることが有効と考えます。

また、同協議会内にプロジェクトごとのグループをつくり、エコツアーの具体的なプログラムづくりや、ガイド役となる人材の育成等、テーマごとにワーキンググループを構成することが考えられます。さらにはプロジェクトの実施には関連機関（観光協会、商工会、観光施設、旅行会社、ホテル・レストランなど）との連携が考えられます。

また、協議会やワーキンググループのメンバー以外の市民等からのアイデアをプログラムに活かすために市民からプログラム提案を受ける制度を導入することで、幅広い市民・事業者等の意見を反映させながら、実現に向けた取り組みを推進していくことが考えられます（図 7.2-1）。

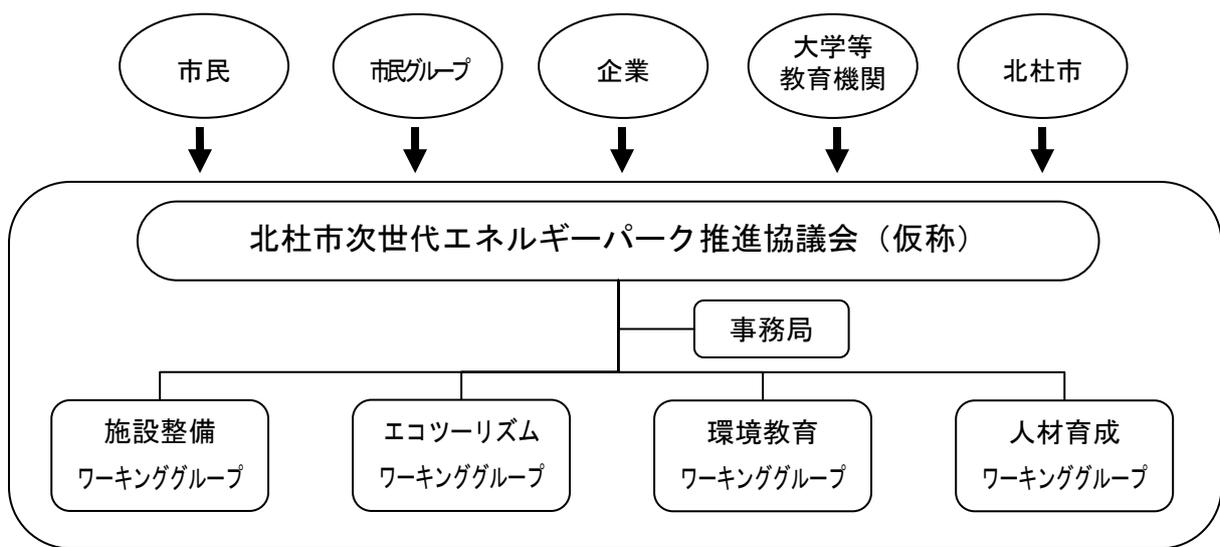


図 7.2-1 組織図、ワーキンググループ概念図

7.3 今後のスケジュール

北杜市次世代エネルギーパークの事業推進を図るため、今後のスケジュールを下図に示します（表 7.3-1）。

表 7.3-1 今後のスケジュール（案）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
管理・運営 (ソフト)		協議会設立、ワーキンググループによる運用検討 運用に向けた人材育成 情報発信 認定	運用主体の検討	運営主体による管理・運営	
施設整備 (ハード)		申請 中核施設機能整備検討 新エネルギー設備導入検討	ビジターセンター整備 次世代エネルギー情報館（仮称）整備（長坂コミュニティステーション内） 新エネルギー設備導入 市、市民、事業者の独自の新エネルギー導入		

7.4 持続可能な運用に向けた課題

これまでの検討から、北杜市次世代エネルギーパークの持続可能な運用に向けて、以下のことが課題として考えられます。

(1) 市民への情報発信、合意形成

アンケート・ヒアリングの結果からも、新たなハコモノ整備やエコツアーの意義に対して慎重な意見があります。市民に対して幅広く情報発信し、理解を深めてもらうことが必要です。

また、環境活動を実践する際には、地域（住民）に対する配慮が必要であり、本パーク事業を推進するにあたっては市民参加を促し、理解していただくことが必要です。

(2) 各主体との協働による事業推進

新エネルギー施設には公共・民間を含めて、見学者の受け入れに対して案内板等設置、安全性の確保など施設面や説明対応などの運営面が整っていない施設も多く、各主体との調整が必要です。

(3) 北杜市版インタープリターの養成

地球温暖化対策等の効果的な普及啓発を図るため、地球温暖化、省エネルギー、新エネルギーの知識に加え、市内の新エネルギー施設や観光資源の知識や北杜市の特徴を理解して本パーク運営をサポートする北杜市版インタープリターが必要です。また、インタープリターには、企画力やガイドスキルも必要なことから養成プログラムの構築が求められます。加えて、インタープリターの活動場面の提供や活動資金の確保も求められます。

(4) 北杜市次世代エネルギーパーク構成施設の充実

新エネルギー設備の導入や案内機能等の整備を推進するとともに、体験プログラムなどのソフトの充実が必要です。このため運用組織への支援等が行政に求められます。

(5) 地域と連携したモデルコースの整備

モデルコースでは単に施設を見学するだけでなく、周辺の地域に密着、連携し、コースの魅力を高め、観光業、商工業等の活性化に寄与することが必要です。